



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	伊豆諸島における小学校体育の現状と課題
Author(s)	立木, 正; 塚本, 博則
Citation	東京学芸大学紀要 . 第 5 部門 , 芸術・体育, 41: 221-230
Issue Date	1989-10
URL	http://hdl.handle.net/2309/4919
Publisher	
Rights	

伊豆諸島における小学校体育の現状と課題

立木 正・塚本博則*

保健体育学**

(1989年6月10日受理)

1. はじめに

東京の南方海上には、北から順に大島、利島、新島、式根島、神津島、三宅島、御蔵島、八丈島、青ヶ島の合計9つの伊豆諸島の島々が飛び石のように連らなっている¹⁾。

伊豆諸島には、東京都公立小学校1419校のうち22校の小学校があり、東京都公立小学校児童数約75万人のうち、約2500人(1987年5月1日現在)の児童が日々学習に取り組んでいる。

伊豆諸島における全小学校は、2級から5級の僻地指定を受けており、必ずしも恵まれた条件下での教育がなされているとは限らない。

僻地度の高い5級を受けている学校は、利島・新島・若郷・式根島・神津・御蔵島・青ヶ島の各小学校の7校、4級の僻地指定を受けている学校は、三宅・阿古・坪田・三根・大賀郷・檉立・中之郷・末吉の8校であり、大島の小学校7校すべては2級の指定を受けている。

そこで、本研究では、今まであまり視点が当てられてこなかった「僻地(離島)教育」に焦点を当て、伊豆諸島における小学校体育の現状と課題を明らかにしようとするものである。

このことは、今後の「僻地(離島)教育」における小学校体育の学習指導の改善・充実のために役立つものと考えられる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、伊豆諸島における小学校体育の現状を把握し課題を明らかにすることにより、今後の離島(特に伊豆諸島)の小学校体育の学習指導の改善・充実のための基礎資料を得ることである。

3. 研究の手順

1988年8月15日～9月30日に、伊豆諸島における全小学校22校の体育主任(22名)と、各学年1学級の学級担任143名(男子78名、女子65名)を対象として、小学校体育の現状に関する質問紙調査を実施した。

* 東京都東村山市立青葉小学校

** 東京学芸大学(184 小金井市貫井北町4-1-1)

質問紙の内容は、体育主任に関しては「教員の構成」「屋外運動場の面積」「体育施設、器具・用具」「カリキュラム」「研修」「学校の研究主題」「体育の学習評価」等についてであった。

学級担任に関しては、日常の体育指導上で特に「指導しやすい点」、「指導しにくい点」や「工夫・配慮をしている点」等であった。

回収率は、学校単位としては91%（22校中20校が回答）であったが、そのうち体育主任に関しては86%（22名中19名が回答）、学級担任に関しては77%（143名110名が回答）であった。

4. 本 論

4.1 教員の構成

伊豆諸島における小学校の数は22校であり、そのうち19校は1872年の学制発布直後に開校されたものである。

その22校全体の教員数は、校長・教頭・教諭・養護教諭を合わせて259名（1988年5月1日現在）であり、男子137名（53%）、女子122名（47%）となっている。

学級担任143名の男女別人数の割合は、男子55%（78名）、女子45%（65名）となっている。

259名の教員の平均年齢は、男子39才、女子33才、平均34才である。

学級担任に限ってみると、男子32才、女子36才の平均年齢となっている。

年齢構成の割合は、20才～29才の人数が最も多く98名（38%）であり、順に30才～39才が65名（25%）、50才～59才が49名（19%）となっている。

教員の年齢別人数は、男子はどの年齢層もあまり差は見られず大体平均しているが、女子は全体の半数近くの46%が20才～29才であり、年齢が増すにつれて教員数が減っていく傾向にある。

伊豆諸島の教員の中で、地元出身者は男子17名（14%）、女子19名（18%）、全体では36名（16%）である。

なお、地元出身教員36人を年齢別に見ると、30才～39才が15名（41%）、40才～49才が6名（17%）の順になっている。

4.2 児童数

伊豆諸島における小学校児童数は、2504名（1988年4月8日現在）であり、児童数の最も多い小学校は三根小学校の390名（13学級）、最も少ないのは青ヶ島小学校の14名（4学級）である。（表1）

なお、伊豆諸島22小学校のうち、普通学級は143学級、障害児学級は12学級ある。

4.3 屋外運動場面積

伊豆諸島の小学校22校における屋外運動場面積の平均は、7477㎡である。最大は19914㎡の差木地小学校、最小は2421㎡の御蔵島小学校の屋外運動場である。

伊豆諸島の児童1人当たりの面積の平均は、65.69㎡で、都区内の児童1人当たりの屋外運動場面積の平均6.58㎡の約10倍である。

なお、岡田小学校、利島小学校、御蔵島小学校、末吉小学校、青ヶ島小学校の5校は、中学校と屋外運動場を共用している。（表2）

表1 伊豆諸島の小学校の概要

設置 町村	学 校 名	児 童 数 (人)	学 級 数	複 式 学 級 数	教 員 数(人)		平 年 均 齢 (歳)			僻 地 指 定 級	創 立 年 月 日
					男	女	男	女	全		
大 島 町	元 町	256	9		8	8	39	41	40	2	1875. 5. 15
	北の山	101	6		6	5	38	39	38	2	1937. 1. 18
	岡 田	97	6		6	5	49	36	43	2	1876. 9. 30
	泉 津	32	6		5	5	37	34	36	2	1875. 2. 15
	野 増	64	6		5	6	45	44	44	2	1872. 6. 15
	差木地	141	6		5	6	41	35	38	2	1874. 1. 25
	波 浮	104	6		5	6	41	35	37	2	1874. 7. 16
利島村	利 島	33	5	1	8	2	33	30	32	5	1877. 4. 1
新 島 本 村	新 島	213	7		5	8	40	31	34	5	1876. 11. 11
	若 郷	39	6		6	5	35	25	30	5	1880. 4. 1
	式根島	65	6		5	6	36	25	30	5	1903. 9. 1
神津島村	神 津	230	8		10	5	36	25	32	5	1881. 4. 13
三 宅 村	三 宅	110	6		6	5	36	38	37	4	1971. 9. 1
	阿 古	113	6		7	6	36	28	32	4	1878. 11. 1
	坪 田	88	6		6	5	35	28	32	4	1879. 6. 21
御蔵島村	御蔵島	31	6		5	4	39	26	33	5	1874. 9. 3
八 丈 町	三 根	390	13		10	11	35	35	35	4	1875. 6. 1
	大賀郷	202	7		8	4	41	26	36	4	1877. 3. 31
	檜 立	43	6		6	5	46	42	44	4	1877. 4. 10
	中之郷	97	6		5	6	40	34	37	4	1875. 12. 1
	末 吉	41	6		5	6	50	32	40	4	1872. 1. 14
青ヶ島村	青ヶ島	14	4	1	5	3	34	25	31	5	1874. 1. 15
	合 計	2504	143	2	137	122	39	33	36		

表2 体育施設・器具・用具の整備状況

学 校 名	屋 外 運 動 場 (m ²)	体 育 館	プ ール	小 プ ール	ホ ー ル (個)	跳 び 箱 (台)	鉄 棒 (連)	高 鉄 棒
元町	14005	○	○	○	70	5	20	○
北の山	11848	○	○	○	30	7	4	○
岡田	共 10802	○	共	○	—	5	12	○
泉津	6650	○	○	○	30	5	4	○
野増	8329	○	○	○	15	5	6	×
差木地	19914	○	○	○	—	6	14	○
波浮	10238	○	○	○	40	4	8	×
利島	共 7580	共	共	×	—	—	4	○
新島	7296	○	○	×	50	4	—	×
若郷	5750	○	○	×	50	4	3	×
式根島	4707	○	共	×	—	—	—	—
神津	6330	○	共	×	60	3	0	×
三宅	7898	○	○	×	16	6	6	×
阿古	4392	○	共	×	—	—	—	—
坪田	3977	○	共	×	30	4	7	○
御蔵島	共 2421	共	共	×	—	5	6	×
三根	9124	○	○	×	100	6	10	×
大賀郷	5798	○	○	×	60	5	3	○
檜立	4450	○	○	×	—	—	—	—
中之郷	5557	○	○	×	40	4	11	×
末吉	共 4425	共	共	×	30	3	8	○
青ヶ島	共 3000	共	×	×	10	3	3	○
合計	164491				631	84	129	

・共は中学校との共用を表す。

・○印は有る, ×印は無いを表す。

4.4 体育施設・設備・器具・用具の整備状況

伊豆諸島の小学校22校すべては、体育館を所有している。そのうち、利島小学校、御蔵島小学校、末吉小学校、青ヶ島小学校の4校は、中学校と体育館を共用している現状である。

プールの所有校は、青ヶ島小学校を除く21校(95%)である。そのうち、岡田小学校、利島小学校、式根島小学校、神津小学校、阿古小学校、坪田小学校、御蔵島小学校、末吉小学校の8校(38%)が中学校と共用している。

なお、低学年用の小プールを所有している学校は、大島の全小学校7校(38%)である。

ドッジボールとサッカーボールの個数の平均は42個（15校が回答）である。跳び箱の数は、1校当たりの平均5台（18校が回答）である。

鉄棒の連は、18校の平均が7連である。また、高鉄棒は、回答数19校のうち53%に当たる10校で設置されている。

4.5 スポーツテストの実施状況

毎年スポーツテストを実施している学校は、回答のあった19校中、8校（42%）である。

4.6 5・6年生の運動領域別時間数

回答のあった16校における5・6年生の運動領域別年間平均時間数を見ると、「体操」13時間、「器械運動」19時間、「陸上運動」19時間、「水泳」14時間、「ボール運動」24時間、「表現運動」10時間となっている。

4.7 体育の年間指導計画

伊豆諸島の小学校において、体育の年間計画を作成するのは、回答数20校中7校（35%）が島全体、12校（60%）が学年（1学年1学級の場合は学級担任）、1校（5%）が学校で作成している。

4.8 体育の通知表の形態

体育の通知表をつける時、回答のあった17校中、1校（6%）が相対評価、8校（47%）が絶対評価、8校（47%）が相対評価に絶対評価を加味して通知表をつけている。

4.9 教科外の体育活動

回答のあった18校中、全校で教科外の体育活動を実施しているのは11校（61%）、実施していない学校は7校（39%）である。

実施している11校中、1週の回数については、1回が4校、2回が1校、2週に1回が5校、12月から2月に限り週6回が1校である。

実施する時間帯は、始業前9校、業間が2校である。

運動種目については、縄跳び、ラジオ体操、ダンス、持久走等である。

4.10 夏季休業中の水泳指導

回答18校中の夏季休業中の水泳指導日数は、平均14日間である。最も長い日数は18日間（2校）、最も短い日数は8日間（2校）である。

なお、1校だけは夏季休業中の水泳指導は実施されていない。

夏季休業中の水泳指導の手当では、回答16校中10校（63%）に支給され、6校（37%）には支給されていない。

手当が支給されている10校中の平均金額は755円であり、その幅は3000円から300円で、学校により差がある。

4.11 地域住民の体育行事への参加状況

運動会については、回答18校中、18校（100%）全部の学校において地域住民の参加が見られる。

水泳大会については、回答16校中、1校(6%)において参加が見られる。

その他の運動種目で、地域住民の参加を認めて体育行事を行っている学校は、回答17校中、5校(29%)であり、「バレーボール」「持久走」「相撲」「遠泳」等の運動種目である。

また、大島では、町全体で「町民体育大会」や「町民水泳大会」が毎年実施されており、伝統的行事の1つとなっている。

4.12 研 修

伊豆諸島においては、教員の研修の機会が多いとは言えないが、次のような研修会が開催されている。

「都研島しょ教育研修会」(各島1回)、「指導部一般訪問」「新規採用教員現地研修会」(合同宿泊研修会は年2回)、「教職経験者研修会」(各島2回)、「指導部開発委員会資料説明会」「校内研修会」「島外出張研修会」等である。

なお、1988年度の校内研修テーマで体育を取り上げている学校は、回答12校のうち1校であるとともに、過去10年間では、その他2校に過ぎない。

また、都内研修について、都内で開催される研修会に参加(出張)しやすいと思う教諭は、回答109名中、11名(10%)、残り98名(90%)は参加しにくいと感じている。

都内で開催される研修会に参加(出張)しにくい最大の理由は、「宿泊を伴うので、日数がかかり過ぎる」(87名, 89%)、2番目の理由は「教員数が少ないので補教を頼みにくい」(57名, 58%)、次は「出張費が少ない」(36名, 37%)、「船利用のため体が疲れる」(26名, 27%)、「乳幼児がいるため家をあけにくい」(8名, 8%)、「交通が天候の影響を受けやすく不便である」(5名, 5%)等が、都内研修に参加しにくい理由の1つになっている。

4.13 体育指導上の問題点

伊豆諸島で体育指導をするにあたり、「指導がしやすい点」「指導がしにくい点」「工夫や配慮をしている点」等は、次のような点である(数字は109名中の人数である)。

①指導がしやすい点

- ・学級数が少ないので、校庭や体育館を自由に使いやすい(83名, 75%)
- ・1学級の児童数が少ないので、個別指導がしやすい(61名, 55%)
- ・校庭が広いので、どんな運動種目でも指導できる(52名, 47%)
- ・1学級の児童数が少ないので、器械運動など1人当たりの試技回数が多い(48名, 44%)

②指導しにくい点

- ・必要な器具・用具・備品などが島内の店には売っていないことが多く、取り寄せるのに時間がかかる(79名, 72%)
- ・1学級の児童数が少ないので、集団スポーツの指導がしにくい(64名, 58%)
- ・予算が少ないため、器具・用具等を十分に備えることができない(62名, 56%)
- ・冬季には西風が強く、校庭が砂ぼこりになることが多い(61名, 55%)

③工夫や配慮をしている点

- ・少人数におけるゲーム指導の工夫をしている(62名, 56%)
- ・人数が少ないため、他学年との合同体育を実施している(39名, 35%)
- ・必要な器具・用具等を早めに注文し、指導時まで間に合うようにしている(33名, 30%)

その他、多数の指導がしやすい点、しにくい点、工夫・配慮点等がある。以下はその1例である。

- ・気候が温暖のため、冬でも校庭に霜が降りにくい。(29名)
 - ・小さい頃から海で泳ぐ(遊ぶ)ことが多く、水に親しんでいるので、水泳指導に入りやすい。(26名)
 - ・異学年集団での指導の機会が多く、縦の人間関係がいい。(19名)
 - ・器具・用具等が豊富である。(3名)
 - ・1学級の児童数が少ないので、ゲームにおけるチーム構成のバランスがとりにくい。(36名)
 - ・潮風のため、器具・用具等のいたみが早い。(31名)
 - ・学年会等がないため指導法等について教員同志で話し合う機会が少ない。(30名)
 - ・2学年合同での指導を行う時、発達段階に応じた指導がしにくい。(23名)
 - ・雨が多く、校庭を使う機会が少ない。(16名)
 - ・施設、器具・用具等が不十分なので、指導できる運動種目が限られる。(16名)
 - ・同学年の児童の中で、体力・運動能力の差が大きく、運動の嫌いな子に意欲の低下が見られる。(14名)
 - ・道路の起伏を利用して、持久走の練習をしている。(13名)
 - ・予算が少ないため、手作りで器具や用具を工夫して作っている。(10名)
 - ・個人の目標を立てさせ、それに向かって努力していく中で、達成感・克服感を味わわせ、意欲を持たせるようにしている。(8名)
 - ・競争意識を高め、向上心を持たせるように他の学校との交流ゲームを行っている。(1名)
 - ・研修の機会が少ないため、他の学校の教員と教材研究等の情報交換をしている。(1名)
- など、指導しやすい点、指導しにくい点、指導上の工夫・配慮点が上げられている。

5. ま と め

本研究は、伊豆諸島における小学校体育の現状を把握し、課題を明らかにすることにより、今後の離島(特に伊豆諸島)の小学校体育の学習指導の改善・充実のための基礎資料を得ようとするものであった。

僻地(離島)における小学校体育の学習指導に関する研究は、今まで必ずしも多いとは言えない。本研究で伊豆諸島における体育に焦点を当てたことは意義あるものと思われる。

以下は、質問紙調査結果から明らかになった伊豆諸島における小学校体育の学習指導に関する、今後解決していかなければならない主な課題である。

(1) 小学校体育のカリキュラムに関する研究

伊豆諸島における小学校の児童1人当たりの屋外運動場の面積は、都内のそれと比較し、約10倍も広い。

全校の児童数、さらには学年・学級の児童数と、運動する場所の広さとの関係や、必ずしも十分とは言えない施設、設備、用具や地域の特性(気象条件等)の実態を踏まえ、カリキュラムの見直しを図る必要がある。

また、少人数に適した運動種目の開発とその教材化をどうするか。合同体育(複式学級や異学年での体育)の授業のあり方とチームティーチング等の関係からのカリキュラムの見直しを図ることが重要課題の1つとなろう。

(2) 少人数における集団スポーツ(ゲーム)の教材開発と指導法の研究

利島小学校と青ヶ島小学校のように複式学級のある学校が存在するとともに、1学級の児童

数が数人や十数人という学校もある。

競争型スポーツとしてのゲームの特性に触れさせるためにも、少人数によるゲームの教材開発と、それに対応した指導法の工夫が、今後の重要な課題となろう。

(3) 個人差（発達段階）に応じた学習指導に関する研究

小人数による学級編成のため、運動種目によっては異学年合同の合同体育の実施が検討され始めている学校もある。

個人差を吸収した学習過程の研究や、個人差に応じた場の工夫等、単元計画や学習指導法のあり方を改善することが重要課題であろう。

(4) ティームティーチングに関する研究

1学級（1学年）の児童数が少ないため、水泳指導をはじめ、いろいろな運動種目における異学年合同による授業のあり方を検討・工夫する必要がある。

20代から50代までの年齢構成の中で、男女の各特性を生かしたティームティーチングの教授組織に関する研究は、選択性授業との関連も踏まえ、今後の解決していくべき課題である。

(5) 生涯スポーツをめざした学校体育のあり方に関する研究

伊豆諸島においては、運動会等、学校行事との関連から、地域住民とのつながりが強い体育的行事がいくつかある。

限られた地域（島）の中で、生活をより豊かにし、運動を実践し継続していく能力や態度を身につける上から、生涯スポーツをめざした学校体育のあり方が、なお一層重要な研究課題となろう。

(1)～(5)の課題の他に、島内・外での研修の充実と出張しやすいための条件整備や、器具・用具等の短期間での購入方法の工夫・改善等、さらには、予算面での十分な確保等の課題が山積している。

今後、さらに、僻地（離島）の小学校体育の改善と充実へ向けて、研究を継続していく必要がある。

参考文献

- 1) 東京都教育委員会、島しょ教育のしおり第22集、昭和63年3月、pp, 50.
- 2) 東京都教職員組合・東京都高等学校教職員組合共編、東京都公立学校教職員名簿、1988、pp, 1279-80.

(資 料)

〈学級担任用〉

伊豆諸島・小笠原諸島の小学校体育に関するアンケート調査

この調査は伊豆諸島・小笠原諸島の小学校体育の現状を把握し、今後の体育の学習指導における基礎資料を得ることを目的としております。お忙しいところ大変申し訳ございませんが、よろしくご協力お願い申し上げます。

_____ 学年担任 男・女 年齢 _____ 歳 出身地 (島内・島外)

I. 離島で体育指導をするにあたり、指導がしやすい(恵まれている)と思う事柄を3つ選び、番号に○をつけてください。

1. 校庭が広いので、どんな運動種目でも指導できる。
2. 学級数が少ないので、校庭や体育館を自由に使える。
3. 一学級の児童数が少ないので、個別指導がしやすい。
4. 器具・用具等が豊富である。
5. 異学年集団での指導の機会が多く、縦の人間関係がよい。
6. 気候が温暖のため、冬でも校庭に霜が降りにくい。
7. 一学級の児童数が少ないため、器械運動など一人当たりの試技回数が多い。
8. 小さい頃から海で泳ぐ(遊ぶ)ことが多く水に親しんでいるので、水泳指導が入りやすい。
9. その他 ()

II. 離島で体育指導をするにあたり、指導がしにくい(恵まれていない)と思う事柄を5つ選び、番号に○をつけてください。

1. 一学級の児童数が少ないので、集団スポーツの指導がしにくい。
2. 二学年合同での指導を行う時、発達段階に応じた指導がしにくい。
3. 予算が少ないため、器具・用具等を十分に備えることができない。
4. 必要な器具・用具・備品(レコード・テープ・本)などが、島内の店には売っていないことが多く、取り寄せるのに時間がかかる。
5. 冬季には西風が強く、校庭が砂ぼこりになることが多い。
6. 雨が多く、校庭を使う機会が少ない。
7. 施設・器具・用具等が、不十分なので、指導できる運動種目が限られる。
8. 一学級の児童数が少ないので、ゲームにおけるチーム構成のバランスがとりにくい。
9. 同学年の児童の中で体力・運動能力の差が大きく、運動の嫌いな子に意欲の低下がみられる。
10. 学年会などがいないため、指導法などについて教員同志で話し合う機会が少ない。
11. 潮風のため、器具・用具等がいたむのがはやい。
12. その他 ()

III. 離島で体育指導するにあたり、工夫や配慮をしている事柄をすべて選び、番号に○をつけてください。

1. 人数が少ないため、他学年との合同体育を実施している。
2. 少人数に於けるゲーム指導の工夫をしている。
3. 予算が少ないため、手作りで器具や用具を工夫して作っている。
4. 必要な器具・用具等を早めに注文し、指導時まで間に合うようにしている。
5. 道路の起伏を利用して、持久走の練習をしている。
6. その他 ()

IV. 離島で体育指導をするにあたり、上記の項目以外に指導しやすいこと、指導しにくいこと(困っていること)、工夫や配慮をしていることがあると思います。それらのことを小さなことでも結構ですからお書き下さい。

V. 都内で開催される研修会に参加(出張)しやすいと思いますか。

1. 参加(出張)しやすい
2. 参加(出張)しにくい

VI. Vで2と答えた方はあてはまる理由をすべて選び、番号に○をつけてください。

1. 出張費が少ない。
2. 教員数が少ないので補教を頼みにくい。
3. 宿泊を伴うので、日数がかかりすぎる。
4. 船利用のため、体が疲れる。
5. 乳幼児がいるため家をあけにくい。(都内では、保育園が終わるまで帰ってくる事ができる)
6. その他 ()

VII. 体育の年間計画は、誰が(どこで)作成しますか。

1. 島共通
2. 学校
3. 学年
4. 学級担任
5. その他 ()